



## 国際センター通信 (No. 25)

### 土木学会創立 100 周年記念国際行事の開催

土木学会は本年創立 100 周年を迎えます。建築などの主な工学系学会からかなり遅れての創立ですが、これは土木が工学の中心的存在であると考えられ、日本工学会に留まっていたためです。日本の土木技術者たちは、日本に安全で快適な生活環境を作るため、日本工学会および土木学会の活動を通じ最善の努力を重ねてきました。土木工学の課題は日本の国境を越えグローバル化していることはご承知の通りですが、その本質は今も変わっていません。

土木学会創立 100 周年事業は、次の 100 年に向けての土木学会の道筋を示す貴重な節目の機会です。土木学会では、下記のようなさまざまな国際関連事業等、記念行事の準備を 10 年近く前から進めてきました。



土木学会  
国際センター長  
上田多門

- (1) 国際フォーラム“社会インフラの豊かな生活への貢献”(2014 年 11 月 20 日)
- (2) 社会インフラ(道路施設)の維持管理に関する国際集会「維持管理による社会インフラのサステナビリティとレジリエンス向上に向けて」(2014 年 11 月 20 日)
- (3) 防災に関する国際円卓会議(2014 年 11 月 19 日)
- (4) 国際若手技術者ワークショップ(2014 年 9 月 10 日～13 日)
- (5) 大韓土木学会・土木学会・台湾公共工程学会ジョイントセミナー(2014 年 8 月 29 日)

11 月 20 日に行われる国際フォーラムでは、世界での国際的な連携を通じて、生活環境の一層の向上のため、土木技術者が果たすべき今後の役割について議論が行われる予定です。防災に関する国際円卓会議では、我々が取り組む共通課題に関して、特に土木学会が属するアジア地域の提携学会間を中心に、情報・経験を共有する手段について協議されます。国際協力は、土木学会と大韓土木学会(KSCE)のように国単位の組織の支部間においても実現可能です。ジョイントセミナーがそのよい例です。土木学会のような各組織においては、将来の困難な課題に取り組むため、より多くの若い世代の参画が求められています。国際若手技術者ワークショップのような取り組みは、土木学会だけでなく世界の同様の組織にとってモデルケースとなるでしょう。

土木学会は創立 100 周年事業を機に、土木技術の専門組織として世界で主要な役割を担うべく、今後の方向性を示していきたいと考えています。2012 年、土木学会には国際センターが設置されました。国際センター設置の趣旨を説明した文書には、「日本の土木界の国際活動が国内活動と同程度の規模となることを念頭に置く」とあります。創立 100 周年記念の国際関連事業は、この期待に向けての出発点となることでしょう。

2014 年 11 月 19 日、20 日の国際関連事業には、ぜひ皆様にご参加いただき、土木学会の次の 100 年のスタートを見届けていただければと思います。

## 国際若手技術者ワークショップ開催

留学生グループでは、100周年事業実行委員会国際部会と共同で、国際若手技術者ワークショップを土木学会全国大会（大阪府豊中市）にて9月10日～13日に開催しました。これは土木学会の創立100周年記念事業の一環です。ワークショップのタイトルをFacing the Challenges of Our Future Societyとし、参加者が2050年の未来社会を予測し、そこでの土木技術者や自身の役割について議論しました。

ワークショップには海外からの招待者11人のほかに、国内の留学生、日本人学生、企業や研究所の技術者など、計51人が参加しました。参加者の国籍は21ヶ国にのびました。ワークショップでは参加者を5～6名ずつの9グループに分け、初日はアイスブレイクの位置づけで、ケースメソッドを用い、東日本大震災における釜石での避難行動について、要因分析を行いました。特に若年層の避難の成功要因を、既存の問題点や取り組みをポストイットに書き込み、ポスター上でグループメンバーが並べ替えながら整理していきました。

2日目は、スキヤニングマテリアルの手法を用い、未来社会を予感させる技術や社会変化に関する数十の情報から、グループごとに未来予測を行いました。ここでは土木分野とは関係なく、情報技術、遺伝子、知能、エネルギー、気候、人口、幸福などに関する情報から、2050年の社会を予想しました。グループ内では、様々な議論がなされ、途中で発表を行うことで情報共有もしつつ、各グループの将来予測がなされました。その後、各個人が土木技術者としての自身の役割について考え、最終的に1人1枚のポスターに纏めました。



グループディスカッションの様子



ポスターセッションの様子

3日目は、最終発表が行われました。全国大会の研究討論会の枠を用いOpen Discussion on 'Facing the Challenges of Our Future Society'を開催し、公開でのグループ発表および議論がなされました。それぞれの発表に、多くの質問と議論がなされ、盛り上がりを見せました。また、磯部土木学会会長、上田国際センター長から開会と閉会の挨拶をそれぞれ頂き、参加者への期待とメッセージが伝えられました。また別途、1人1分の個人発表も行われました。

現在取り組んでいる業務、研究、勉学の内容からの発展ではなく、社会全体の動向から未来予測をし、そこでの課題から土木技術者の役割を考えていく手法は、参加者にとって新鮮で、特に若い技術者にとって有意義な機会となりました。



研究討論会の様子



クロージングパーティー

夕方には、日本企業に勤める参加者から、職務の内容が紹介され、海外からの招待者や留学生が日本企業について知る機会ともなりました。クロージングパーティーでは、参加者が懇親を深めるとともに、藤野100周年事業実行委員会委員長、福本前国際センター次長からもメッセージを頂きました。

最終日は、テクニカルツアーとして、明石海峡大橋を見学し主塔にも登り、世界最長スパンの吊橋を体感するとともに、震災資料保管庫では阪神大震災の被害状況と復旧について学びました。

4 日間に渡り 50 名以上が参加したワークショップは、留学生グループとしてこれまでで最大のイベントとなりましたが、様々なバックグラウンドをもった参加者が、積極的に議論し、刺激し合い、交流を深め、国際若手技術者ワークショップにふさわしい内容となりました。



全体集合写真

【記：留学生グループリーダー 長井宏平】

### 第 8 回災害リスク管理に関するジョイント国際シンポジウム (防災教育、阪神・淡路大震災からの復興、気候変動下の災害適応策) の報告

災害リスク管理に関するジョイント国際シンポジウムが、2014 年度日本建築学会大会「近畿」（神戸大学、兵庫県神戸市、9 月 12-14 日）の期間中に約 60 名の参加をもって開催されました。本シンポジウムは、日本建築学会・土木学会・日本工学会・世界工学団体連盟(WFEO)の共同主催、日本学術会議の協賛によるもので、日本に加えて海外（台湾、インド、イスラエル、ペルー、コロンビア）から防災・減災・防災教育などの研究・調査に関わる 8 名の研究者・技術者が講演者として招かれました。本シンポジウムはプログラム（下記 URL 参照）に従い、日本建築学会会長の吉野名誉教授（東北大）より過去の災害を参考にした未来の災害への備えの重要性が強調された開会挨拶に始まり、インド各地で発生する自然災害の実例（Basa 会長-インド工学会）、台湾の防災コミュニティの形成・合意過程（劉教授-暨南国際大）、同じく台湾の地方政府における災害管理の実施能力の評価（馬助理教授-銘傳大）、バングラデシュの防災教育におけるコミュニティ活用事例（斉藤主任研究員-兵庫県人と防災未来センター）、東日本大震災の巨大津波災害から学ぶ有効な減災方法（Mas 助教-東北大）、地震災害からの効果的・効率的復興過程の研究（Prof. Lavan-イスラエル工科大）、自然災害に起因する化学物質汚染被害の事例（Prof. Cruz-京大防災研）、市民の防災意識を高めるための建築設計の事例（古谷教授-早稲田大）をそれぞれ講演して頂きました。

質疑応答では、アジア各国の自然災害への適応策の事情も交えて活発な意見交換を行いました。特に、本年のシンポジウムは 1995 年の阪神・淡路大震災の被災地で開催されたため、斉藤主任研究員より当時の大震災の様態とその後の復興について簡単に説明して頂きました。最後に、WFEO 災害リスク管理委員会(CDRM) 委員長の小松特命教授（九大）より、自然災害におけるリスク管理の今後の取り組み、及び防災・減災に関わる人々の連携の重要性を強調され、引き続き石井前 CDRM 委員長より、来年度開催予定の世界工学会議（WECC2015@京都）の案内が行われてシンポジウムを終了しました。なお、本シンポジウム実行委員会では主催関係者の挨拶文と講演者の論文を掲載した要項集を作成しました。以下のウェブサイトでダウンロードが可能です。

[\(www.wfeo.net/stc\\_disaster\\_risk\\_management\\_meetings/\)](http://www.wfeo.net/stc_disaster_risk_management_meetings/)

本シンポジウムは、防災に関して多面的な物の見方・考え方を提供しています。来年度は世界工学会議の WECC2015@京都([www.congre.co.jp/wecc2015/](http://www.congre.co.jp/wecc2015/))とジョイントの形で開催される予定です。

【註】

- 1) WFEO とは1国1会員制の工学専門集団で、工学を通して世界経済の安定・社会発展を目指す NGO です。CDRM は WFEO 下部組織の災害リスク管理に関する委員会です。
- 2) シンポジウムプログラム：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/69>



講演の様子



質疑応答の様子



シンポジウム終了後の集合写真

【記：WFEO 災害リスク管理委員会事務局幹事補 木村延明】

## 英国分会だより

土木学会英国分会はケンブリッジ大学の曾我会長、ロンドンリーサーチインターナショナルの津村幹事を中心とした在英の主として日本人土木関係者で構成される組織です。英国に籍を置く会員数は3人と少数ですが、本邦企業の駐在の方や留学生など定期会合には幅広くの方々に参加いただいております。英国で在英日本土木関係者を束ねる唯一の組織で、定期会合の他、英国で土木の実情を土木学会関係の訪問者に提供しております。



写真1は橋本鋼太郎前土木学会長が来英したときの懇談会の様子です。英国土木学会 (Institution of Civil Engineers) の会長を来る土木学会 100 周年記念の式典への招致が主たる目的でした。英国の土木学会や土木業界の状況、そして 100 周年を迎える今後の土木学会の将来を討論しました。

写真1 橋本鋼太郎土木学会前会長訪問時の懇談会

写真2は藤野陽三土木学会100周年事業実行委員会委員長が、ロンドンでの国際会議出席の際に分会を立ち寄られた際の様子です。英国のコンサルタントの状況や日本のゼネコンの海外進出をテーマに討論、意見交換を行いました。

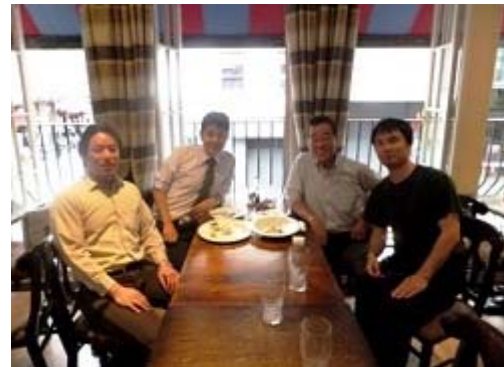


写真2 藤野陽三100周年事業実行委員会委員長との懇談会

さて、この文を書いている人間は何者かといいますと、英国分会メンバーの齊藤大輔と申します。私は、Mott MacDonald という英国の大手建設/マネジメントコンサルタントに現地採用で勤務、橋梁を中心とする土木構造物の設計やアセスメントに従事しています。英国分会には既に9年ほど前からお世話になっています。日常の業務を通じて日本土木の強みたる要素技術が情報発信不足のため殆ど英国や海外のエンジニアに知られていないことに歯がゆさを感じており、国際センターとの連携とともに一定の役割が果たせないかと思案しているところです。是非、英国をお訪ねの際は、その旨土木学会までお知らせいただければと思います。土木学会関係の皆様をお迎えできることを楽しみにしております。

## イベントカレンダー

- 2014年11月13日～15日・・・フィリピン土木学会（PICE）年次大会（フィリピン・レガスピ市）
  - 2014年12月3日・・・世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ 第3回シンポジウム開催  
「パハン・セラシール導水トンネル」（東京土木学会）  
[http://committees.jsce.or.jp/kokusai/project\\_3](http://committees.jsce.or.jp/kokusai/project_3)
  - 2014年12月19日・・・土木学会 - ホーチミン工科大学ジョイント・橋梁の維持管理に関するセミナー  
（ベトナム・ハノイ工科大学）
- <土木学会創立100周年記念国際関連行事>
- 2014年11月19日・・・防災に関する国際円卓会議（東京土木学会）  
<http://jsce100.com/node/219>
  - 2014年11月20日・・・国際フォーラム「社会インフラの豊かな生活への貢献」（東京JPタワーホール&カンファレンス） <http://jsce100.com/node/220>
  - 2014年11月20日・・・社会インフラ（道路施設）の維持管理に関する国際集会「維持管理による社会インフラのサステナビリティとレジリエンス向上に向けて」（東京土木学会） <http://jsce100.com/node/313>

## お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要をJSCEのwebsite（英語版）にアップしました。  
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 38 が発行されました。  
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>
- ◆ 土木学会創立100周年記念切手が9月1日に発行されました。  
<http://jsce100.com/node/250>

## 購読申し込み

国際センター通信購読の申し込みは以下の URL よりお願いいたします。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- ・日本語版：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>
- ・英語版：<http://www.jsce-int.org/node/150>

## ◆掲載記事募集します◆

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。文字数は 800 字程度で和文または英文でご投稿ください。

記事投稿の詳細はコチラ>>> (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>)

## 編集後記

土木学会は 1914 年 11 月に設立され、今月で 100 周年を迎えます。100 年間に渡り、土木技術の進展に貢献し、社会の発展に寄与してきたということは本当にすごいことです。100 年前に東京駅が開業した頃は時速 500km を超えるリニア中央新幹線が計画されることなど想像できなかったと思います。100 年後はどんな未来になっているのでしょうか。ドラえもんの誕生 (2112 年) が約 100 年後になります。タケコプターのような飛行道具で空を自由に飛び回っているかもしれません。そんな明るい未来に向けた活動を展開していければと思います。(U.H)

【ご意見・ご質問】: JSCE IAC: [iac-news@jsce.or.jp](mailto:iac-news@jsce.or.jp)

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。

